◎（ｂｅ　ｂｅｔｗｅｅｎ　読者とつくる）イチローと松井、どっちが好き？

米大リーグのイチロー選手は「天才型」、松井秀喜選手は「努力型」――そんな見方をされることがあります。世評に基づいて「あの人はこんなタイプ」と決めつけるのは強引ですが、今回はそれを承知のうえで、あえてどちらが好きかをｂｅモニターのみなさんに尋ねてみました。（春山陽一）

　チャンスメーカーのイチロー選手、好機に強い松井選手。天分に優れ、たゆまぬ努力を重ねている２人をイメージで前置きし、どちらが好きかと尋ねた結果、イチロー選手（＝「天才型」）が６６％を占めた。

　ただ、その理由は「天才的なのに努力を怠らない」が圧倒的に多く、「ずばぬけた天才性」の２倍以上の票を集めた。

　「イチローさんは、野球の才能も努力する才能も両方持っているから開花した」（静岡、４６歳女性）、「彼ほど自分に厳しい人はいないはず」（長野、４７歳男性）、「名馬であり、かつ努力家でもある」（宮城、７７歳男性）という声が相次いだ。

　とはいえ、いくら努力を重ねても、あれだけの記録を打ち立てるのは困難だ。「いくら努力しても、生まれながらの天才に勝ることは難しい」（大阪、３７歳女性）との見方も出てくる。

　一方、松井選手（＝「努力型」）を選んだ人からは、人柄に触れた意見が目立った。「どんな逆境にあっても努力を惜しまない、腐らない人間性にひかれる」（愛媛、４１歳女性）、「ひたむきさ、黙々と励む姿を評価したい。飾らない話し方も好き」（福島、７７歳女性）。

　さて、そんな前振りを経て、ｂｅモニターのみなさんに自分が天才型か努力型かと尋ねたら、結果は２対８。天才型と答えた人の多くは、その理由に「大抵のことを才能でやり抜いてきた」を挙げた。努力型の人は、主な理由に「天才性がないのを自覚している」、「努力しないと人並みにできない」を選んだ。

　「継続は力なり。そうやって乗り切ってきた」（埼玉県、６３歳男性）、「ウサギとカメ。最後はカメが勝つと信じたい」（兵庫県、６９歳男性）。神奈川県の無職男性（６５）は「私は中卒だが、会社の同僚はみんな大卒だった。経済や経営の書籍を読み込み、どんな仕事も率先し、休日も出勤した。結果的に周囲の大卒を抜いて役員になれた」との体験談を寄せた。

　試しに天才型と努力型のどちらが得かと尋ねたら、６割が天才型と回答。「語学の勉強に金と時間をかけて努力しているが、目標に近づけない。天才型なら、もっと早く達成できているのでは」（北海道、６９歳男性）、「子供将棋教室をしているが、才能のない子は努力しても強くならず、指導するのがつらくなる」（静岡、７０歳男性）。

　長野県の自営業の男性（５０）は「運やチャンスを生かせるのが天才ではないか」と言う。

　男性は５年前、かかりつけの医師にちょっとした体調不良を訴えたら、高度医療機関の検査を強く勧められた。大きな病院に連絡をとると、「今日はたまたま空いてる」。すぐに訪ねた結果、大腸がんが判明した。翌年、陽電子放射断層撮影（ＰＥＴ）を申し込むと、予約で満杯だったのにたまたまキャンセルが出て、がんの肺への転移が見つかった。「自分の直感、天才性で救われたと思っている」

　運も才能のうち――そう考えれば、誰もが「天才的」。あとは努力するだけか。

　◆新たな目標を超えて

　イチロー選手も松井選手も天才的だし、努力家でもある。イチローに多くの票が集まったのはなぜか――。

　米大リーグに詳しい評論家芝山幹郎さん（６２）は「イチロー、松井で７対３になると思っていた」と話す。イチローが嫉妬（しっと）されるほどの技芸を、組織人間でなく、個人として示している点が人気を集めていると分析する。

　昨春のワールド・ベースボール・クラシック（ＷＢＣ）の影響もあるといい、「優等生のように組織（ヤンキース）を優先して不参加だった松井に対し、イチローは野球少年のような『個人の思い』で参加して結果も残した」。確かに、あの決勝での鮮やかな適時打は記憶に新しい。

　芝山さんは「天才は次々と新たな目標を作り、並外れた努力で壁を破っていく」と、天才と努力が不可分であることを踏まえつつ、こう話す。「イチローの発言はとっぴな印象を与え、松井の予定調和的な言動に比べ、理解されにくい。そこが天才の難しさ。イチローは奇をてらっているつもりじゃないのですが」

　■イチローと松井、どっちが好き？［回答者・５３１７人］

イチロー選手（天才型）　６６％

松井秀喜選手（努力型）　３４

　▼「イチロー」の人が答えました

　●その理由は？（二つまで選択、上位六つ）

天才なのに努力を怠らない　２３４２人

ずばぬけた天才性　　　　　１０９０

大リーグ記録を作った　　　　６９１

カリスマ性　　　　　　　　　３８６

言動がユニーク　　　　　　　３８５

格好いい　　　　　　　　　　２８２

　▼「松井」の人が答えました

　●その理由は？（二つまで選択、上位六つ）

態度に裏表がない　　　１０４５人

黙々と努力している　　１０３０

性格がよさそう　　　　　７６６

実績がすばらしい　　　　１８３

長打力がある　　　　　　１４４

けがとたたかう姿に共感　１４０

　▼全員が答えました

　●あなたは「天才型」「努力型」のどっち？

天才型　２１％

努力型　７９

　●「天才型」と「努力型」、どちらが得だと思う？

天才型　６１％

努力型　３９

　▼「天才型」の人が答えました

　●その理由は？（二つまで選択）

凡人が努力しても報われないことがある　１６４７人

独力で道を開ける　　　　　　　　　　　１２０８

天才が努力したら無敵　　　　　　　　　　８２７

時間をかけずに大成できる　　　　　　　　７５４

他社の追随を許さぬ第一人者になれる　　　６１０

社会から賞賛される　　　　　　　　　　　１３７

その他　　　　　　　　　　　　　　　　　　７２

　▼「努力型」の人が答えました

　●その理由は？（二つまで選択）

努力で得られる喜びは大きい　１２２１人

人の痛みや苦労が分かる　　　　７４８

努力しない天才は大成しない　　６２２

他の人と連帯感を味わえる　　　４３１

努力は必ず報われる　　　　　　４１８

社会で評価される　　　　　　　２３６

その他　　　　　　　　　　　　２８９

　＜グラフィック・岡山進矢＞

◎ビジネス）『職場の人間関係に悩む、すべての人へ　天才を殺す凡人』　北野唯我〈著〉

すれ違う才能を組織で活かすには

　相反する才能を組織の中で巧みに活（い）かし、コラボレーションさせる方策を説く。反響を呼んだブログの内容を物語に落とし込んだものだが、関西弁を操る犬が悩める主人公を導く設定は、ゾウの神様が登場する某ベストセラーの二番煎じか。とはいえ論旨は明快で「なるほど」と思わせる。

　世の中には天才と秀才と凡人がいて、各々（おのおの）が創造性、再現性、共感性に秀でている。問題は価値判断の軸が互いに違うこと。凡人は天才を理解できずに排斥し、秀才は天才に憧れと嫉妬心を抱き、天才は凡人に理解されたいと願う、といった具合にすれ違う。

　その結果、それぞれに苦しみ、天才は凡人に“殺される”。表現は過激だが、要するに、才能や可能性をつぶされるという意味。また、この関係性は組織をも蝕（むしば）む。ベンチャー創成期のように天才が組織を率いる時代が終われば、秀才が企業のトップに就く。すると天才を理解できない凡人が天才を管理することになり、イノベーションを起こせなくなるわけだ。

　多数決という凶器で凡人が天才の命（創造性）を奪うという指摘は、異端の才をうまく活かせない日本社会に対する警鐘だろう。さらなる議論の糸口としたい論考だ。

　梶山寿子（ジャーナリスト）

◎だれでも「天才」に？　計算機プログラムの自動変換に成功

「凡人」がつくった計算機プログラムを天才がつくったものに自動変換するしくみを、早稲田大学理工学部の二村良彦教授（情報科学）と早大ソフトウェア生産技術研究所の小西善二郎研究員が開発した。変換後のプログラムは計算時間をけた違いに短縮できるため、スーパーコンピューターが必要な処理でもふつうのパソコンでできるという。アイルランドで六月に開かれた国際会議で発表した。

　プログラムはバグと呼ばれるミスがあると動かなくなるため、正確さが第一に求められる。効率は二の次となるが、「天才」と呼ばれるプログラマーはひらめきに優れ、ふつうの十倍も効率がよいものを書くといわれている。

　このしくみは、二段階から成る。第一段階では、長いプログラムを分解し、中に埋もれて見えなくなっている個所から、計算可能な部分を洗い出して事前に計算する。たとえば、「２掛ける３」という部分が見つかれば６に置き換える。

　第二段階では、今回開発した人工知能を使ってプログラムの構造を探り、データベース化した天才のひらめきを当てはめる。

　たとえば、１からｎまでの自然数を足し合わせるとしよう。ふつうは一つずつ加えていくが、公式に置き換えてしまえば、ｎがどんなに大きくても三回の計算で済む（メモ参照）。

　これは、単純化した例にすぎない。実際には、もっと複雑で多彩なしくみが使われて、プログラムが書き換えられていく。

　そのプログラムをもう一度、第一段階に戻して新たな計算可能部分を探す。

　一連の作業を繰り返し、プログラムの改良ができない段階まで続ける。

　基本の考え方は二村教授が八七年に発表したが、人工知能部分が実用に耐える速さで働く保証が得られず、「実現を信じる学者はいなかった」（Ｒ・グリュック・コペンハーゲン大学助教授）。だが、九六年から研究に参加した小西さんは、天才のひらめきは四十種程度のパターンに分類できることに注目。パターンを見つける人工知能の能力を高めれば変換が滑らかに進むことがわかり、研究が一気に進んだ。

　欧米では、コンピューター自身にプログラムを開発させようという研究が盛んだ。今回の研究と組み合わせれば、正しく、しかも効率よいプログラムの自動作成も夢でなくなる。

　二村教授は「特定のプログラム言語で成功したが、改良を進め、さまざまな言語でも対応できるようにしたい。自動変換の効率をさらに高めるために、あと数種類の工夫を組み込みたい」と話している。

　◆伊藤貴康・東北大学大学院教授（ソフトウェア基礎科学）の話　今回成功したのは、一つのプログラム言語だけだが、ソフトウェアの自動変換の分野で大きな躍進となる成果だと考えている。実際に活用できるまでには改良の余地がある。どんな場合に、この手法が活用できるかがはっきりするともっとよい。

　○「ひらめき」これも１例

　自然数１からｎまでの総和、１＋２＋３…＋ｎは公式があり、（ｎ＋１）×ｎ÷２で求められる。１つずつ足していけばｎ－１回の計算が必要で、ｎが大きくなれば計算時間が膨大になる。だが、公式を使えばたった３回の計算で済む。

山口県（８）風土に根ざす画風（新人国記８５：９５６）

　荒々しい日本海とおだやかな瀬戸の内海。北と南に二つの風土をもつ山口の自然は、さまざまな分野で多彩な顔をはぐくんだ。

　国画会の松田正平（７２）は、千葉県市原市のクヌギやシイに囲まれた古い米蔵のアトリエで、リンゴ箱にカンバスを置いて絵筆をとっている。余分な絵の具をそぎ落とすのは、どこかの散髪屋でもらってきた使い古しのカミソリ。アトリエを出るときには、スギの丸太を削った自作のげたが待っている。「絵だけで貧乏じゃけ、間に合うものは何でも手作り」。去年の日本芸術大賞も、「あんな賞があったのも知らん。で、いくらお金をもらえるかと聞いてしもうて」と天衣無縫だ。旧制宇部中時代、油絵を描く先輩がいた。かっこよさにひかれ、文具屋で十五円をはたき油絵の道具一式を買った。東京美術学校で学んだ藤島武二教室には同郷の故香月泰男もいて、終生の友になった。在学中に帝展、文展とたて続けに入選、郷里は「もしかして天才では」とたまげる。

　光や雲、風、潮で寸分の休みもなしに表情を変える周防灘が、どこの海よりいいと魅せられ、機会があれば光市沖の祝島通い。島では、歩きまわり、ぼうーっとしていることも多く、島の人は「絵かきと言っとるが絵は子どもみたいに下手。わしらに黙って宝探しでもしとるんじゃろ」。

　透明で微妙に色彩が変化する瀬戸内海を追う松田に対して、行動美術協会中堅の多摩美術大教授田中稔之（５６）の原風景は、生まれた防府市あたりの真夏の瀬戸内海だ。青い水平線に入道雲、原色で鮮明。頭上に輝く太陽は、のちにゴビ砂漠で感じた無限の空間と重なり、宇宙の存在を表現しようとする鮮やかな円や曲線となって独自の画風を展開する。同じ大学の教授には宮崎進（６３）がいる。徳山市生まれ、「見世物芸人」で四十一年度安井賞。新幹線小郡駅では、縦４メートル、幅９メートルのステンドグラス「秋吉台の四季」が、観光客の目を楽しませている。

　前衛絵画の桂ゆき（７１）は東京生まれだが、地元では下関出身と信じている人が多い。冶金（やきん）の権威だった東大名誉教授の父が長府藩につながる名門の出で、実家も長く下関に残っていた。本人も女性では珍しく前衛に進んだり、日本人がまだほとんど行っていない三十年代のアフリカに単身入りこみ、体験記をものする行動力や才気が、いかにも長州人気質らしい、と受け止められたからのようだ。童女をそのまま大きくしたような桂は、コラージュ（はりつけ絵）にも取り組んでいるが、「まだまだ実験的なことをやってみたい」と大きな目を輝かす。

　新しい技法を日本画に持ちこんだ小野具定（７１）。胡粉（ごふん）やホルマリンで固めたカンバスに、たたきつけるように絵の具を塗りそぎ落とし、さらに重ねる。瀬戸内の明るさに反発して、風雪の北の海や漁村、雪の山を描く。創画会。花鳥風月には目もくれず、「日本画の絵の具で人間の力の及ばないものをどれだけ伝えることができるか」。田布施町の生まれ。

　宇宙と地球とを作品でつなごう、と試みている彫刻家の田中米吉（５９）も特異な存在だ。作品と地球を一体化させる、さらに宇宙につなげようとする壮大な観念の造形化が、意表をつく作品を生み出す。埼玉県立美術館の壁面を超抽象の造形で飾る準備を進めているが、山口の代表的な菓子、外郎（ういろう）作りの会社社長でもある。

　洋画の若い芽には、家業の表具店を手伝いながら独学で五十八年度安井賞展の佳作賞になった萩市の藤崎恒頼（３８）、五十六年度に佳作賞を得た宇部市の堀研（３６）がいる。ともに行動美術会員、ライバルで友だちだ。漫画集団同人の森吉正照（６０）は、防府市生まれで神戸高工卒の電気技師だった。新聞や雑誌に趣味のマンガを投稿するうち注文が多くなり、十年勤めた住友金属を退社して転進。本格的なユーモアアートに取り組んでいる。

ノーベル銀行（生と死の新世界－米国の医療現場から：２）

　ハズは凍結精子　批判よそに１５人が出産

　ロサンゼルスで精神心理学相談所を開いているアフトン・ブレーク博士（４３）は未婚の母だ。奇妙な話だが、相手の男性と会ったことはない。名前すら知らない。ただ優秀なコンピューター学者であることは知っている。人工授精、それもノーベル賞級学者の精子を提供する話題の精子銀行を利用したのだ。

　人工授精に決めたのは５年前。すてきな男性を待っていては高齢出産になると心配したからだ。凍結精子と器具を送ってもらい、毎月、排卵日に自分で人工授精を試みた。８カ月たってやっと妊娠。８２年８月２４日、出産。

　ギリシャ語で「天賦の才能」を意味するドロンと名づけた。もうすぐ３歳になる。透き通るような白い肌、青い目にブロンドの髪。「父親に似たのか、この通り、今からマイコンに熱中しています」とブレークさんは目を細める。

　「これ、重いのよっ」。ブレークさんは奥の部屋から２６キロもあるという精子保存タンクをもってきた。酪農家で見かける牛乳運搬用の容器に似ている。精子は１ミリリットルずつ小さなびんに分け、細長いチューブにはさんで摂氏零下１９６度の液体窒素に浸してある。

　「今年中に２人目を産もうと思って、同じ男性の精子を全部送ってもらいました」。凍結精子と“同せい”し、気が向いた時に解凍して体内に注入するという、ＳＦの世界みたいな生活である。

　ロサンゼルスから南東へ車で約２時間のエスコンディード市。銀行や不動産会社が入居しているモダンな建物の一角に、“ノーベル銀行”はあった。「生殖細胞選別貯蔵所」という、ものものしい看板が出ている。

　プラスチック製眼鏡レンズの発明で億万長者になったロバート・グレアム博士（７９）が、優秀な子孫をこの世に残そうと、１９８０年に設立した。「遺伝子を傷つける放射線を遮るため、タンクは鉛製。１０００年以上、保存できます」とグレアム博士。

　提供者は１４人。ノーベル賞学者３人のほか、著名な数学者からオリンピックの金メダル受賞者まで、各分野の天才ばかり。利用できる女性の方も銀行側の厳しい審査に合格した高い知能の持ち主でなければならない。これらの人たちの精子で子どもを産んだ女性は１５人、さらに１０人が妊娠中だ。

　精子提供者に報酬は出さない。女性からも精子の料金はとらない。遠方の女性にはタンクを宅配便で配達する。とるのは郵送料だけ。子どもが生まれ、精子が余ったら、送り返してもらう。年間１０万ドル（約２４００万円）の運営費はグレアムさんのポケットマネーだ。

　米国の科学者たちは、この銀行に批判的だ。知能の遺伝は複雑で、環境とも深い関係があるからだ。

　ナチの人種差別みたいだとの声もある。グレアムさんは「人種差別ではない証拠に、優秀な日本人科学者にも協力を申し入れています」と反論するが、リストに載っているのは白人ばかり。

　もし、ひと握りの天才の子孫がどんどん増えたらどうなるのか。人工授精が盛んな米国では、結婚を前にした２人がじつは同じ男性の精子による人工授精児だとわかって、別れさせられたケースさえある。結婚前に精子銀行へ問い合わせることが当たり前になる日がくるかも知れない。

竹原　園子さん（たけはら・そのこ＝元ピアニスト、旧姓井上）１９日午後３時４分、老衰のため、青梅市の青梅慶友病院で死去、７０歳。葬儀・告別式は２１日正午から東京都世田谷区奥沢７ノ１３ノ２１の究竟寺で。喪主は長男荘太郎（しょうたろう）氏。自宅は東京都世田谷区中町４ノ１４ノ１９。

　大正１５年、１１歳のとき、日本交響楽団とモーツァルトのピアノ協奏曲を演奏、天才少女と評判になった。１５歳でウィーンの国立音楽学校に留学、１９３３年のウィーン国際音楽コンクールで１位入賞。昭和２５年に引退した。

宝塚市を中心に関西各地のコーヒー店が集う「ジャパンコーヒーフェスティバル２０２３　ｉｎ　宝塚」が２～５日、同市立手塚治虫記念館横の広場などで開かれる。約２５店が日替わりで出店。飲み比べが楽しめる。

　「手塚治虫作品と珈琲（コーヒー）」をテーマに昨年始まった。今年は、無免許の天才外科医が主人公の「ブラック・ジャック」がテーマ。作中にいくつか登場するコーヒーを飲む場面からイメージを膨らませたオリジナルコーヒーを、各店が提供する。

　２日は正午～午後７時、３～５日は午前１０時～午後５時（最終日は午後４時）。コーヒーチケット３枚（パンフレット付き）は１８００円。

人間の特権　数字で遊ぶ（加藤安博さん　８１　千葉県）

ゆうゆうと時間つぶしの紙とペン（吉川洋子さん　７８　島根県）

さぁ、果てしない数の世界へ（越澤京子さん　５５　京都府）

数学には役にたたない魅力がある（関創太さん　小６　山梨県）

熟考する若き天才たち（宮崎心琴さん　高２　宮崎県）

　■天声人語（２０２３・７・１３）

　数学が苦手な生徒は往々にして、正解ではなく、ある疑問にたどりつく。いわく、何でこんな勉強をするのか。将来、いったい何の役に立つというのか。１０代の筆者もよく、そんな嘆きを重ねていた▼ああ、そうかと気づいたのは、藤原正彦さんの著書『数学者の言葉では』を読んだときだ。「役に立たない、というのは、価値がないということではない」と数学者は説いた。大切なのは何かを深く考えること。すぐに成果が出ずとも、その行為がいかに尊いかを教えられた▼彼らもまた、そんな深遠な世界に魅了されているのだろう。国際数学オリンピックが２０年ぶりに日本で開かれた。世界各地から集まった若き天才は約６００人。１位が中国、２位が米国だった▼日本も６位と健闘した。「数学は紙とペンさえあればできるけど、奥が深いです」。金メダルをとった都立武蔵高３年の北村隆之介さん（１７）はうれしそうだった。ひとつの問題を解くのに、何十時間も考え抜くことがあるとか▼卓越した才能たちにとって、この数学の五輪は格好の晴れ舞台だ。同時に、数学好きの裾野を広げる効果にも期待したい。より多くの人の関心を呼べるような、仕掛けづくりがあればと思う▼数学は万人をひきつける美しさを持っている。「真理の探究とやらでゆうゆうと時間つぶしをするのは、最も人間らしい生き方なのかも知れない」。藤原さんはそうも書いている。世界レベルにはほど遠くとも、私なり、自分なりの探究を楽しみたい。

　■選考会から

　数学は何の役に立つのか。多くの人が考える、解くことの意味や魅力を、大胆に、効果的に表現した作品が集まりました。

　編集者たちが脱帽したのが〈人間の特権　数字で遊ぶ〉。「最も人間らしい生き方」を「人間の特権」に言い換えたセンス。「数字で遊ぶ」は、オランダの歴史家ホイジンガが提唱したホモ・ルーデンス（遊ぶ人）のようで美しいとの声も出ました。

　〈ゆうゆうと時間つぶしの紙とペン〉は文中の言葉を「の」でつなぐ技が光ります。問題を解く様子が、五七五のリズムで浮かび上がります。

　数学が苦手な人に手をさしのべる――。そんな優しさが伝わるのが〈さぁ、果てしない数の世界へ〉。「果てしない」という言葉には、考える行為に終わりはないという数学の深遠さがにじんでいます。

　〈数学には役にたたない魅力がある〉は前向きで力強い見出し。マイナスの印象を持つ「役にたたない」という語句に「魅力」を重ね、ガラリと印象を変えた点も評価を集めました。

　〈熟考する若き天才たち〉は数学オリンピックに出た高校生の数学愛に着目。「熟考」が、ひとつの問題を解くのに何十時間も考え抜く数学の奥深さを感じさせます。この魅力をうまく表現したのは、優秀作に次ぐ評価を集めた〈熟慮の楽しみ　無限大〉。「無限大」が効果的です。

　■（編集者の見出しワンポイント）数学＝数楽、天才のペンは時を忘れ　原稿を因数分解

　原稿を「因数分解」して見出しを作ることがあります。まず各段落のメッセージを探して小見出しを考えます。

　１段落目は「数学は役に立つのか」、２段落目は「何かを深く考える尊さ」、３、４、５段落目は「深遠な数学の世界、若き天才魅了」、６段落目は「楽しもう　自分なりの真理探究」と言えそうです。まとめて「数学は役に立つかどうかでなく、真理の探究を楽しむもの」という見出しの軸を作ります。

　この軸をもとに、情景を描ければ引きつける見出しになります。数学を楽しむ天才たちに着目し、「数楽」としました。ひとつの見出しを作るために、考え抜くことはきっと楽しいはずです。（棟形祐水）

　■投稿Ｖｏｉｃｅ

　◆子ども時代は算数が苦手で苦痛でした。しかし定年退職後、パズルやクイズが楽しくてたまりません。問題の解けた時の喜び、頭の中すっきりした感じ、レベルは違いますが、数学は美しいとはこんなことかな、と思います。（茨城県・６０代）◆この企画、「優雅な暇つぶし」に大いに利用しています。（広島県・７０代）

　■次回お題、８月３日付

　８月３日付の天声人語を読み、１５字以内の見出しと、考えた理由（１００～２００字）を投稿してください。理由を含めて優秀作を選考します。優秀作は９月２５日の朝刊で紹介し、図書カード３千円分を差し上げます。お題の文章、応募は専用サイトｈｔｔｐ：／／ｔ．ａｓａｈｉ．ｃｏｍ／ｍａｎａｂｉｂａｔｅｎｊｉｎから。１人で複数の応募も可。郵送の場合、住所・氏名・年齢（在学中の場合は学年も）を記入の上、〒１０４・８０１１　朝日新聞コンテンツ編成本部「まなび場天声人語」係へ。締め切りは９月１７日（消印有効）。抽選で２０人に、新聞を使った学びに役立つグッズを差し上げます。

天才トランペッター、故クリフォード・ブラウン　１０３曲の全集発売

「ブラウニー」の愛称で日本でも親しまれた天才トランペッター、クリフォード・ブラウンのエマーシー在籍時代の全作品を集めたＣＤ１０枚組の全集「コンプリート・エマーシー・レコーディングス・オブ・クリフォード・ブラウン」（フォノグラム）が、命日の６月２６日に発売される。

　ブラウンは１９５４年、２４歳でエマーシーの専属となり、２５歳で交通事故で若死にした。その間、わずか１９カ月間にアルバム１１枚分に匹敵するレコーディングをした。今回の全集にはこれらの録音に加え、これまで未発表だった「恋とは何でしょう」「慕情」などの別テイクや、セッションでのリハーサル録音など延べ１０３曲を吹き込み順に収録している。

　消費税込み１万９５７０円。５月末締め切りの限定発売だ。

画一教育では天才育たない（声）

　東京都　桑原竜太（中学生　１３歳）

　僕は目下スランプである。毎日の予習・復習もしないし、宿題さえ忘れることがある。だから、授業についていくことができない。アメリカのような自由主義先進国の学校教育方法は、生徒一人ひとりの自由な発想をこわさない、まさに自由主義的なものである。

　しかし、日本はどうだろう。生徒全員が、同じ教科は同じ進度で授業を受ける。たとえ途中でリタイアした者がいても、教師によっては構わず先へ進めてしまう。だが悪いのは教師ではなく、現在の日本における教育体制なのだ。

　極端に言えば、現在の日本の教育体制は画一的なプロシア流教育と同じだと思う。あの相対性理論でそれまでの物理学を根底からくつがえした天才物理学者、アインシュタインもプロシア流教育体制に苦しめられた。

　このままでは、日本には天才と呼ばれるような人物は出なくなるかもしれない。僕のようにスランプになった人は、永久に立ち直れなくなるかもしれない。このような教育体制は改めるべきではなかろうか。ソフト業界の天才凡才集まれ　９０年代９０万人不足のソフト人材

　ソフト業界における「人手不足」という言葉は、

　単に、量的な人員不足のみを指していう言葉ではない。

　面白いゲームや役にたつビジネスソフトを作るためには、

　「質」も決定的に重要だ。

　天才も欲しいし、凡才も欲しいのである。

　演壇に登ったコピーライターの糸井重里さんは、５００人近い聴衆を前に、ニコッと笑った後、とまどったような表情を作った。

　「みんな、まじめでこわいよって、さっき中村君から言われたんだけど、その気持ちわかるなあ」

　冗談ぽく話し始めたが、それにつられて笑ったのは数人。ほとんどの聴衆は、じっと糸井さんをにらみつけているか、下を向いたままだ。

　「任天堂・電通ゲームセミナー」という催しが、３月２４日、東京・築地で開かれた。参加した４６７人のほとんどが大学生。

　この日の講師は３人。ファミリーコンピュータマガジン、通称「ファミマガ」の山森尚編集長、「ドラゴンクエスト・シリーズ」の製作を担当したチュンソフトの中村光一社長、自らファミコンソフト「マザー」をプロデュースした糸井さん、いずれも、ファミコンの世界では超有名人だ。

　「ゲームソフトのプログラマーを育てることが主な目的。参加者の中から、作文と面接で２０人程度に絞るつもりです」（任天堂）

　この２０人の学生を、任天堂ではこれから１０カ月間、毎週１回、鍛えることにしている。細かい作成テクニックを教えた後、各自に、企画段階から完成品まで、すべて１人でゲームを作らせてみるという。任天堂は明言しないが、人材育成と同時に、もし、新鮮な感覚のゲームができれば、という「二兎作戦」といってもいいだろう。

　○「おたく」に加えて小説家や芸大講師

　セミナーの参加者は、世間が思っているほど「おたく」といった感じではない。しかし、「青田買い」と考えている参加者が多いことや、数えるくらいしか女の子がいないということもあって、やはり、けっこう、暗い。

　現在、任天堂のゲーム製作スタッフは約７０人。５チームに分かれ、同時並行でゲームソフトを作っている。７０人の内訳は大ざっぱにいって、ディレクター（５人）、グラフィックスを担当するキャラクターデザイナー（十数人）、音楽担当（１５人）、プログラマー（３０数人）。しかし、この分け方も流動的で、２つ以上の職種を兼務している人も多い。この中で、ディレクターというのは、映画でいえば、プロデューサーと監督とシナリオライターを合わせたような存在だ。

　「どの職種も足りないが、どの職種にもプログラマーとしての最低の基礎知識は必要。だから、今回のセミナーはプログラマー中心に絞った」

　新卒者だけではなく、別のメディアからも、ファミコンの世界に人材は参入しつつある。

　「糸井さんの人脈が大きい。まだ、はっきりした形としてはでてきていないが、ほかのメディアのプロ、たとえば、小説家やテレビのシナリオライター、ミュージシャン、コピーライター、芸大の講師、出版関係者など３０人ぐらいの方々が、ファミコンゲーム製作に興味を持ってくれている。ゲームにとって最も重要なアイデアという点で、期待しています」（任天堂）

　「任天堂さんは特別。強気ですね。やはり、ファミコン人気に支えられています。しかし、ほかのコンピューターソフト業界は、圧倒的に人手不足。この業界に入って来る人もどんどん増えているんですが、それを上回るペースで、ニーズが増えているためです」

　ソフト関連業界を対象とした就職情報誌を、年４回、発刊している「日本ソフトバンク」社の高津祐一氏は、業界の現状をこのように見る。

　「９０年代は、プログラマーやシステムエンジニアなどを中心に９０万人の技術者が不足するといわれています。会社のシステム設計などの仕事をしている受託型ソフトハウスの中には、人手がないために、ユーザーの要求をこなせず、結局、大きな会社に吸収されてしまうケースも増えている」（高津氏）

　パソコンやファミコンの専門誌には、普通の商品の広告に交ざって、「人材募集」広告が大量に入っている。

　現在約３００人の開発要員を抱える業務用大手の「タイトー」は、３年後にこれを４５０人に増強する予定。また、「アスキー」も、現在３０人の開発要員を１年で５０人に増やす計画。今春、「ナムコ」は５０人、「セガ・エンタープライズ」は７２人も、技術者を新規採用するという。

　○理科系わずか５人、全学部全学科対象

　「信長の野望」や「三国志」などの歴史シミュレーションゲームの開発で知られる「光栄（こうえい）」は、今春、２７人の新卒者を採用した。応募者は約１３００人。同社では応募要項に「全学部全学科」とうたっている。今春、入社する２７人のうち、いわゆる理科系は５人しかいない。

　「学部の枠にとらわれていては、創造性のあるいい人材は採用できない。コンピューターはそれ自体が目的ではなく、創作意欲を実現するための手段に過ぎないんだから、パソコンに触ったことのない人でも、入社後に研修すればいいんです」

　と、社長の襟川陽一（えりかわ・よういち）さん（３９）は話す。門戸を広げることによって、人材を確保するという戦略だ。

　福岡市の「システムソフト」社も、人材募集広告を大々的に展開しているソフトハウスの１つだ。同社は、「大戦略」や「上海」などのゲームソフトで地歩を築いた後、米アップル社の「マッキントッシュ」用のビジネスソフトに進出した。設立は８３年。従業員数９０人、年商約３０億円。

　「仕事は腐るほどあります。今の倍は人手が必要でしょう。ハードメーカーから、仕事がひっきりなしに入ってくる。やれば儲かることはわかっているんだけど、人手がないんで、ほとんど、断っている」

　同社のゲーム部門責任者の宮迫靖（みやさこ・おさむ）さん（２８）は、こう話す。ヒットしたゲームを作ったソフトハウスには、

　「自社のハードでも動くようにプログラムを変えてくれ」

　というハードメーカーからの「移植要請」が絶えないが、手が回らないのが実情だそうだ。

　社長の樺島正博さん（４０）は、

　「ファミコンの方がパソコンよりパイが大きいし金もいい、ということで東京などでは人材がファミコンに流れてしまう。その点、うちは福岡にいてよかった。九大など地元の大学もあるし、Ｕターン組も増えている」

　と、「地方の利」を説く。しかし、それだけに頼るわけにもいかず、

　「仕事の水準を落とさないためには、報酬もある程度は出さないといけないと思っています。近く、大手都銀クラスの３０歳年収１０００万円を達成する。今年からは、プロ野球選手のように年俸制も取り入れます」

　○華麗な転身の常務、今後は外国人労働者

　他社からの転職者も多い。笹渕正直（ささぶち・まさなお）常務（３２）の経歴は華麗だ。

　８１年、システムソフトの前身「システムソフト福岡」に入社。８３年アスキーに。８５年、システムソフトに出戻り。８６年、マイクロソフトに。８８年、またまた、システムソフトに出戻り。

　「出身が福岡ということもありますが、やりたい仕事がある所に動いているうちに、こうなってしまったとしかいいようがありません。動くたびに、少しずつ上のポストになって、給料も２、３割ずつ増えましたけどね」

　と、笹渕さんは苦笑いする。

　東京の業界関係者によれば、

　「天才と呼ばれるごく少数の中には、数百万円単位のトレードマネーで引き抜かれていく人もいる」

　というが、これはあくまで例外的なことで、やはり、当面の最大の問題は「量」だそうだ。

　日本ソフトバンクの関連会社で、就職情報を扱っている「ラディク・ラボ」社では、日本の理工系大学院に通う中国人留学生から、

　「このまま日本に残って、コンピューター関連産業で働きたい」

　という問い合わせを、これまでに約３０件も受けたことがあるという。

　「優秀な人材が多かったが、いろいろな障害で実現しなかった。外国人労働者は、飲食店や建設現場などにはいるが、この業界には、ほとんどいない。日本語が堪能でなくても英語さえできれば何とかなる世界なんです。日本人だけでは人材が足りないことは明らかなのだから、中国、韓国、フィリピンなど、アジア中の優秀な人材を集めることを真剣に考えねばならない」

　と、同社では分析している。（編集部　鈴木啓一、松本敏之＝写真）

　●スターよりとにかく量欲しい　任天堂・今西紘史総務部長に聞く

　　ファミコンのハードは、日米合わせて累計３５００万台。ソフトも年間５０００万本が売れていく。コンピューターソフト業界の「巨人」になった任天堂の今西紘史（いまにし・ひろし）総務部長に聞いた。

　　　　　　　　　●

　ソフトクリエーターの質量の拡充は、わが社の一番の課題であり、永遠の課題です。ファミコンはこれだけ普及したし、メディアとして定着した。これを維持、発展させていくのはソフト次第。ソフトを作る人材の拡充が、すべてを決めることになる。

　テレビ業界は３０余年かけて、膨大な人材集団を作り上げた。いま、ファミコンのソフトを作っている会社は１５０社ぐらいある。任天堂でなくても、どこの会社に入ってもいいから、このメディアに人材が集まってくれればと思っています。

　ともかく量が足りない。業界全体が渇望している。たくさんいればいい、というものじゃないことはわかっているが、質は量についてくるのではと思っているんですがね。

　以前は工学部系統の人が多かったが、最近は、音楽や美術関係の学科の卒業生も、広く集まってきています。特に女性ですね。いま、うちの開発スタッフで１３人ぐらい。いろんな意味で、ファミコンが夢のあるメディアだということが、女性の間にも浸透してきているようです。

　任天堂は、初任給も普通（大卒で１７万６０００円）。売れるゲームを作っても、別にボーナスをもらえるわけでもない。スターはいりません。もちろん、ヘッドハンティングなどするわけがない。それでというのもおかしいですが、定着率は、ほぼ１００％です。

日本の未来は明るい？　早熟の天才少年少女たち

　プロ野球の世界ではヤクルトの村上宗隆選手（２２）が次々とホームランの最年少記録を打ち立て、日本中に明るいニュースを提供している。だが他のジャンルには、もっと年少の記録保持者がたくさん。「若き天才」たちの秘めたる可能性は、村上選手にも負けない、明るい話題だ。

　日本の囲碁界が沸いている。中学生でプロになり、あっという間に五冠を手にした将棋の藤井聡太竜王よりはるかに若い９歳４カ月で、世界最年少のプロ棋士になった天才少年が登場したからだ。

　大阪の小学３年生、身長１３０センチの藤田怜央さんだ。

　８月１７日にあったプロ入り会見で「目標は世界一」と話した怜央さんは、椅子に座布団を３枚重ねて座高を上げないとカメラに映らないほど、見た目は“子供”そのもの。しかし多くのトップ棋士が認め、才能ある子供を抜擢する「英才特別採用規定」でプロ棋士になった。

　これまでの世界最年少プロ記録は韓国の曹薫鉉九段と中国の常昊九段で、いずれも９歳７カ月。ともに世界戦で優勝経験のある“世界一棋士”だ。このところ世界戦で冴えない日本の囲碁界が期待するのは当然だろう。

　両親と３歳年上の兄との４人家族の次男。きっかけは４歳のころ夢中になったオセロだった。対戦相手を求めて父親がオセロ教室を探したが見つけられず、「見た目がオセロに似ている囲碁はどうか」と近所の碁会所に連れていくと、夢中になった。

　入門１０カ月でアマ初段、幼稚園年長組で大阪府の囲碁大会、小学生低学年の部で優勝。小１で関西棋院の院生（プロ候補生）に。昨年は中高生の院生を相手に総合成績で２位となり、英才採用の審査が行われることになった。

　東京大学卒業後に銀行マンを経てプロ棋士になった石倉昇九段は、怜央さんを「世界でトップになれる日本の囲碁界期待の星」と言う。

「聞くところによると、中堅どころのプロ棋士とすでに対等に打つ力があると言います。院生として仲間たちと切磋琢磨するだけではなく、もっと強い棋士を相手に負けて悔し泣きするような体験を経て、さらに強くなってほしいという才能なので、英才採用でプロにしたのでしょう」

　英才採用を導入した理由は、国を挙げて育成される中国や韓国の棋士に勝つためだという。

「第１号で採用された仲邑菫さんが今ではトップ棋士に成長し、英才採用は成功している。先を読む力、記憶力、集中力に加え、経験がものをいう大局観も優れている。幼くして囲碁に必要な才能すべてを備えているのが怜央さんの強さの秘密です」（石倉さん）

　プロデビュー戦でどのような囲碁を打つか、注目だ。

　怜央さんよりさらに若い、７歳のときに「孫正義育英財団」の財団生に選ばれたのが春山侑輝さん（１１）だ。未来を創る高い志と異能を持った若者を支援する目的で、ソフトバンクグループの孫正義氏が作った財団で、侑輝さんは最年少（当時）で合格した。

　まだ歩行器を使っていたころから本が好きで、他のおもちゃには見向きもせず、動物や昆虫の図鑑を眺めていたという。そんな姿を見た母親は図書館に侑輝さんを連れていき、好きな本をどんどん読ませたという。その中で古生物図鑑が特に気に入り、そこから微生物や細菌、人体の不思議に関する専門書を次々と読むようになる。ウイルスや免疫などミクロの世界への興味から「生物学者になりたい」と言いだしたのは４歳のころだった。

　そんな侑輝さんと財団の出会いはノーベル賞を受賞した山中伸弥教授への憧れからだ。小学１年生で財団の選考を受けたのは、山中教授が財団の理事を務めていたから。合格するのは６５０人中５０人程度という難関を突破して見事、最年少財団生となった。

　昨年からは東大大学院で実験のノウハウを学び、今年からシェアラボで二酸化炭素を吸収するシアノバクテリアを用いた光合成をするタイルの研究・実験を進めており、先日その試作品を完成させたばかり。今後は実用化を目指して研究を進めるという。

　侑輝さんは言う。

「光合成するタイルのアイデアは小学３年生のころ、テレビで温暖化ガスの問題を取り上げるニュースを見て思いつきました。アイデアが具体的になったのは小４のとき。初めはシアノバクテリアの塗料を作ることを考えていたのですが、財団生の人と話してタイルにすることにしました。工場から排出される二酸化炭素から酸素を生成し、世界の二酸化炭素削減に貢献したいです」

　研究対象は光合成をするタイルにとどまらず、抗体医薬品の研究にもチャレンジ中だ。

「１８歳までに特許を取り、体内の特定の部位の細菌だけを殺傷し、体内の細菌を傷つけずに細菌感染症を治療する、抗体医薬品を応用した薬を開発したいです」（侑輝さん）

　大人顔負け、研究者にしか思えない発言をする一方で、侑輝さんはこんな話もしてくれた。

「研究や実験をしていないときは、動画配信チャンネルでアニメを見たり、ユーチューブでゲーム実況を見たりするのが好き。苦手は食べるのが遅いこと。もう少し早く食べられるようになりたいです」

　世界の課題を解決し、山中さんのようにノーベル賞を受賞するような研究者になってほしい。

　■ＮＨＫ朝ドラの曲を作るのが夢

　早熟の天才が数多く生まれる音楽の世界にも、若き逸材が現れている。

　愛知県豊橋市の中学１年生、鈴木美音さん（１２）だ。作曲家の父・直己さんの影響もあり５歳でピアノ、６歳で作曲を始めた。ピアノではショパン国際ピアノコンクールのアジア大会で銀賞など、数々のコンクールで大活躍中だ。

　世間を驚かせたのは７歳のとき。東京交響楽団の「こども定期演奏会」のテーマ曲に応募し、美音さんが作曲した「ハリネズミのベッド」序曲が史上最年少で選ばれ、サントリーホールで演奏されたのだ。８歳のときには画家の山崎優子さんが描いた絵本『ぼくたちのうた』に、美音さんが作曲した曲をつけた音楽絵本が出版された。

　１０歳のときには、自身が持つ絶対音感を利用して「温度や湿度によってピアノの音がどのように変わるか」を分析した研究で「全国小学生『未来』をつくるコンクール」で文部科学大臣賞を受賞（自由研究部門）するなど、各方面でマルチな才能を発揮している。

　コロナで休校時にはみんなを楽しませたいと、１人で１２種類の楽器を演奏し、自作の曲を録音した動画をユーチューブにアップした。「歌作りにどんどん挑戦したい」と声を弾ませる。

「中学生になって、クラシックだけではなくジャズピアノを練習しています。ポップスも弾けるようになってステージで演奏したいです。作曲はまず思いついたメロディーを書きとめ、ハーモニーを一つずつ確認しながら積み上げていくので、完成したときの喜びが大きい」（美音さん）

　夢はＮＨＫ朝ドラの曲を作ることだという。

　■得意の絵を使い、環境保護訴える

　若き環境活動家も生まれている。この７月に琵琶湖に生息する５０種の魚を観察し、２００色の色鉛筆で鮮やかに描いた絵図鑑『はじめてのびわこの魚』を出版した黒川琉伊さん（１４）だ。テレビで活躍するさかなクンをモジって、周囲から「こさかなクン」と呼ばれている魚好きだ。

　きっかけは２歳のときに見たアニメ「スイスイ！フィジー！」。興味を見せた息子に「本物の魚を見せたい」と、母親の雅世さんが琵琶湖博物館に連れていくと「目の色を変えて喜んだ」（雅世さん）という。毎日のように博物館に通ううちに、展示しているすべての魚の名前を覚えてしまった。

　小学２年生のとき、「琵琶湖を戻す会」が主催する外来魚駆除大会（琵琶湖の外来種を釣るイベント）に優勝した景品で大型の水槽をもらい、琵琶湖の固有種を飼い始めたことで魚への興味がさらに増し、知識を深めていく。

　小４で「琵琶湖まで３０秒」の家に引っ越すと、琵琶湖通いが日課に。夏は素潜りして魚を観察し、採取。冬でも胴長をはいて水路などの魚を採る。現在は約２０種、数百匹の琵琶湖の魚を飼い、朝４時起きで世話し、琵琶湖で魚採りをしてから登校するのが日課だ。

　琉伊さんが絵図鑑の出版を決意したのは「琵琶湖のゴミ」がきっかけだった。

「琵琶湖の鳥に釣り糸が絡まっている姿を見て、琵琶湖を守りたいと言いだした。将来の夢として“琵琶湖を守る仕事に就きたい”と琉伊は言っています。それならば得意の絵を使って、その気持ちを伝えることができるのではとアドバイスしたら１年がかりで魚の絵を描き、本を完成させました。子供が興味を持ったことを応援し続けることができたのは母として誇れることです」（雅世さん）

　今回紹介した４人に共通するのは、子供が興味を持ったことを親がひたすら応援したこと。才能を開花させる最大の秘訣なのかもしれない。

（書評）『天才の考え方　藤井聡太とは何者か？』　加藤一二三、渡辺明〈著〉

　■新旧名棋士が語る、理論と直感

　将棋界の二人の天才が天才を語る。まあ自分のことを語ればそのまま天才論になる。天才は天才にしか興味がない。だから天才なのである。天才は常に「何者か？」と問われる。生まれつきの非凡さ、努力のレベルを超え、神に愛された人ということになろうか。

　僕の世代で大山康晴、升田幸三、加藤一二三の名を知らない者はないが、将棋が今日のような社会的関心事に拡大したのは、羽生善治の出現が大きい。イチローのように羽生は将棋界のスーパーヒーローである。そんな彼と一度市中の人混みで同行したことがある。彼は身長もあって目立つ存在にもかかわらず誰も彼の存在に気づかない。オーラを殺した自然体だ。自我を滅却させ自己を超えた無の状態に僕は彼の中に真の天才を見た。

　さて、本書の対話者加藤一二三は自ら命名の如（ごと）く「直感精読」の人で、直感を勝負哲学とする。物事を複雑に考えない、常に単純（シンプル）に考え、終わったこともひねくり回さないところはそのまま彼の人生観につながり、大山康晴十五世名人に「大天才」と言わしめた。芸術家肌の棋士である。

　一方、渡辺明は対戦を控え、事前研究に徹し、環境や時間、行動予定のチェック、理にかなわないことは避ける。このような性格によって、今の時代の理詰めに従った現代将棋の適性と一体化し、変化の切り替えがうまいところはスタイルを変えない加藤と対照的だ。

　羽生の後に台頭してきた藤井聡太はデジタル世代の天才。理論と直感の複合タイプで、まだ未知数だと先輩棋士は言う。しかし、アナログの羽生世代はデジタル世代にはまだ脅威的存在であるらしい。藤井は羽生との対決を「楽しんで指したい」と言ったことに、加藤、渡辺の二人は驚いている。口では簡単だが、修羅場をくぐった加藤、渡辺でさえ、到達し得ない心境らしい。勝負の世界はそんな生やさしいものではないというのが二人の結論。

真岡署は１１日、芳賀町東高橋の「ロマンの碑河川公園」に設置された記念碑「ロマンの碑」（直径約１・１０メートル）が盗まれたと発表した。洋画家・青木繁と恋人で町出身の洋画家・福田たねをモデルに描いたブロンズ製のレリーフで、１９７６年に設置された。署が窃盗の疑いで調べている。

　発表によると、１１日午後２時ごろ、碑が外され、台座だけになっているのを町職員が発見して通報した。町内の排水処理施設２カ所で銘板が盗まれたため、ほかに被害がないか周辺を点検していたという。

　町によると記念碑は、「夭逝（ようせい）の天才」と呼ばれた青木の作品の数々が福田との愛から生まれたことを記念する碑で、彫刻家の故ワグナー・ナンドール氏が制作した。パレットを持った青木と福田、２人の子の幸彦（後の音楽家・福田蘭童）の３人の仲むつまじい姿が描かれていた。（高橋淳）

　▲８九玉の図で一つの組み上がりだ。後日の藤井は「対局中は少し作戦負けかと思っていたが、それほどでもなかった。悪かったのは指了図からの指し方です」と言っている。

　午後４時前。△６一飛▲２六角と互いに力をためた局面で、現地控室に谷川浩司十七世名人が現れた。名人戦に合わせた記念講演会が高山村で行われるため訪れたという。前日長野市に入り、昼間のうちに講演会を終え、これから大阪に帰るそうだ。去年引退した田中寅彦立会人が谷川と盤をはさんで検討する姿を「記念に写真を撮ってくれ」と所望し「もう１回２人で指したかったなあ」と感慨深げに言った。両者が張り合った若手時代を思い出す。時代は変わったが、将棋界を動かすエネルギーの中心にあるのは、常に若き天才の輝きだ。

　「藤井さんに自分の最年少記録を破られるなら、光栄なこと」と講演会で話したという十七世名人は、「ここまで、名人が思い描いていた局面の一つに見える」と言い残して去っていった。

　６筋は先手も全力で受けているところだけに、そう簡単につぶされることはない。指了図は後手の分岐点。△７五歩と突いて戦線を拡大するか、それとも△６五同銀と取ってあっさり駒交換するか。藤井は比較的早く次の手を指した。（青）

藤井聡太、という天才と同じ時代に生きている幸運を、一体、何ものに感謝したらいいのだろう。

　谷川浩司十七世名人と、羽生善治九段を超える棋士が誕生したにもかかわらず、いつもの対局と同じく、決着がついた瞬間、盤上に漂っていたのは静けさだった。周囲の人々が興奮し、シャッターを切ったり、歓声を上げたり、くす玉を割ったりしている中、片方の棋士は負けを認め、もう片方は深く頭を下げていた。二人の間に並ぶ駒たちは、ここに至るまでの長く尊い思索の跡を刻んでいた。勝者は自分が成しとげたことの意味になど気づいていないかのような冷静な目で、その軌跡をなぞっていた。

　藤井聡太が史上最年少、十四歳二か月でプロ棋士になった時、人々は彼がやがていくつものタイトルを獲（と）り、名人になるだろうと予想した。既に天才でありながら、更なる高みを期待されていた。それがどれほどの重荷か、本人にしか分からない。

　十四歳といえばまだ少年である。プロ入りして間もない頃、対局が終わった夜、迎えに来たお父さんと一緒に将棋会館から帰ってゆく後ろ姿の映像を、目にしたことがある。

　「ああ、そうか。彼はこんなにも将棋が強いのに、一人ではまだ夜道を歩けない子どもなんだ」

　と気づき、天才として成長してゆくのを半ば義務付けられた少年の、か細い背中が愛（いと）おしく思えてならなかった。

　しかし、彼は期待以上の成長を見せた。初めてのタイトル、棋聖を獲得してから七冠に至るまでわずか三年。しかも出場したタイトル戦をすべて制した。史上最年少、の肩書が増えるたび、そんなに急がなくてもいいのでは、とかえって不安になるほどだった。

　十四から二十、と言えば、人間として最も劇的な変化を見せる時期だろう。その期間の成長を、藤井聡太は見事に将棋で表現した。ＡＩ時代の申し子として将棋を更に発展させたと同時に、将棋が人間を成長させるのだという事実を、見せてくれた。

　羽生善治は谷川浩司から王将を奪い、史上初の七冠を達成した。将棋界の時代の転換を象徴する場面として繰り返し映像が放送されてきた。けれどその後、谷川は羽生七冠から竜王、名人、王位を奪い返している。

　天才は決して、一人では成り立たない。実力者たちが真正面からぶつかり合い、精魂の限りを尽くした対局を積み重ねてゆく中から、特別な存在が生まれ出てくる。そして当然ながら、将棋には盤上を共に旅する相手がいる。打ち負かすべき相手とともに、一手ずつ、高みを目指して登ってゆく。相手が単なる敵にしかすぎないのであれば、至高の棋譜は残せない。藤井聡太という突出した存在は決して孤立しているのではなく、長い将棋の歴史に深く根差しつつ、次へつながる大きな波の一滴となっている。

　二〇一九年の冬、初タイトルを獲得する前の藤井聡太と一度だけ対談をした。素人の私の質問にも丁寧に答えてくれた。最も印象深かったのは、写真撮影のため、将棋盤に駒を並べる時の手つきだった。ただ仮に並べているだけなのに、指が一つ一つの駒に対し、尊敬の念を捧げているかのようだった、神々しくさえあった。数えきれないくらい触れ、動かしてきた駒の奥に、まだ自分の知らない秘密が潜んでいる。その秘密に対する一種の畏（おそ）れが、こちらにも伝わってきた。

　九×九の小さな盤上の奥には、どんな世界が広がっているのだろう。天才だけが目にすることを許された風景が、あるに違いない。藤井聡太七冠はそれをもう目にしただろうか。現実の枠を超え、宇宙を突き抜け、あの世の果てにまで至るような、究極の空間。人間の知能が行き着ける最果ての地。

　藤井聡太七冠を通し、私たちはその神秘的な風景の存在を信じることができるのだ。

　　　　　＊

　おがわ・ようこ　作家　１９６２年生まれ。「博士の愛した数式」で２００４年に本屋大賞など。近著に、棋士やアスリートの身体についてのエッセー集「からだの美」がある。

作家が演じる文士劇の公演が２０日、石川啄木をテーマに文京区で開かれる。文士劇は啄木の生誕の地・盛岡市で続いているもので、終焉（しゅうえん）の地である文京区に遠征しての公演となる。

　タイトルは「一握の砂　啄木という生き方」。

　若き天才詩人として注目された啄木だが、盛岡で創刊した文芸誌の失敗などで生活は困窮。北海道を漂泊した後、文学の創作活動のため上京する。理想と現実の間で生きる啄木の姿が描かれる。

　脚本を担当した盛岡市在住の道又力さん（６２）は「啄木は周りに迷惑をかけますが、逆境の中で常に前向きに生きた人で、『啄木ってこういう人だったの？』と思ってもらえたらうれしい」と話す。

　公演は昨年１２月に盛岡市で披露され、東京公演は内容と出演者を一部変更。日本文学研究者のロバート・キャンベルさん、脚本家の内館牧子さん、作家の井沢元彦さん、羽田圭介さんらが出演する。

　注目されるのは、言語学者・金田一京助の孫の金田一秀穂さん（７０）と啄木のひ孫の石川真一さん（５８）の出演だ。

　啄木と京助は盛岡高等小学校以来の親友。京助は物心両面で啄木を支え、親交は啄木の死まで続いた。

　金田一さんは「若いころに啄木という天才的な人のそばにいられたことは京助の幸運だったと思う。啄木にお金を貸して、貸し倒れになるけれど、本人はうれしくてそうしていた」。そのうえで「田舎から出てきて２人で苦労した損得抜きの楽しくて幸せな時代。そういう感じが（劇で）伝わればいいですね」と話す。

　石川さんは啄木の娘・京子の孫にあたる。劇では借金だけでなく啄木と芸者の恋なども触れられるが、「日記や研究から大きくかけ離れたところはなく、不満は全くありません」と笑う。「啄木を知らない方にも興味を持っていただければ非常にありがたい」

　文士劇の研究者でもある道又さんによると、文士劇の始まりは明治の中ごろで１３０年以上の歴史がある。最も有名な劇は三島由紀夫や石原慎太郎らが出演した「文春文士劇」だが、１９７８年に閉幕した。

　盛岡の文士劇は戦後間もない４９年に始まった。中断を経て９５年、盛岡市在住の直木賞作家・高橋克彦さんを座長に復活。毎年チケットが完売する盛岡の冬の名物行事となっている。

　文京シビックホールで、午後０時３０分開演。会場で当日券の販売がある。（杉村和将）

日本人が忘れていた天才画家・若冲の素晴らしさを思い起こさせたということ、これがプライスさんの大きな功績です。申し訳ないことに私のことを、若冲を現代によみがえらせたなどと言う方がおられますが、実はタッチの差で、三つ年上の彼が第一発見者だったんだと思います。

　私は若冲という非凡な画家を大正末期に出た図録で知るんですが、実物を見る機会がなかった。東京国立文化財研究所に勤めていた１９６０年代、ある米国人が東京や京都の古美術商で若冲を探し回っている、といううわさが流れてきた。

　気になった私は６４年ごろ彼が東京の古美術商に手付金を払ったという若冲の花鳥画を一日だけお借りし、母校の東京大の美術史研究室で学生さんたちと見ました。外国に渡ったらもう見られないと思った。見納めという意味だったんです。

　その話を聞いたのか、プライスさんがほどなく、私を訪ねてくださった。「私は集めたものは絶対に見せ惜しみはしない。いつでも見に来て下さい」と。

　私はオクラホマのプライス邸にあった展示施設を何回も訪ねましたが、彼はその都度、屏風（びょうぶ）などを自分で出して片付けてということを一人でやってくれた。次々に訪れる研究者のため、この動きを何千回、何万回とやったのでしょう。ロサンゼルス郊外に自宅が移った後は、研究者に引率されてくる学生たちが泊まれるようにマンションの数部屋を購入していたほどです。

　エンジニア出身のプライスさんは日本語が読めないままに、画家の名前や作品の来歴に頼らず、絵だけで判断する。鋭い感性で、日本の我々が抱くのとは異なる、明るいイメージの江戸絵画を集めた。それが若冲ら半ば忘れられていた画家の発掘につながった。

　プライスさんは作品を見せることで、私は「奇想の系譜」などの文章を書くことで、二人三脚のように若冲のキャンペーンを続けたわけです。４年前には、出光美術館（東京）がコレクションのうち約１９０件を購入した。ある意味、里帰り。ありがたいことです。